

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

触媒シニアパワーの活用の場

現在私は NEDO の化学関係のプロジェクト、例えば有害化学物質リスク削減基盤技術開発や GSC プロセス基盤技術開発などの委員として、プロジェクトの選定から、進捗管理、評価などの仕事に協力させてもらっています。廃棄物を出さない、または除去するプロセスや GSC ケミカルズの開発、実用化の研究が多いので必然的に化学反応、特に触媒反応化を図る事で目的を達成するケースが多くなっています。

その中で強く感じる問題点は、研究担当者は **What to make** には強いのかもかもしれませんが、**How to make** に弱い、特に触媒やプロセスの工業化の研究開発経験が欠けていることです。例えば実験室で良い性能、それも非常に低い STY での固定化触媒を見つけ 100 時間程度の連続反応を行って性能低下が無いと、後は必要規模の流通反応装置を作れば工業化が可能と思ってしまうという事がよくあります。実験室のテストでも、温度分布や拡散過程などの反応工学的な検討が無く大丈夫なのかという危惧を持ってしまいます。ましてや我々が慣れ親しんだ工業化検討（触媒の大きさ、強度、均質な調製法、反応器の形状等々の検討）項目および所要の期間が意識されていない例が多く見かけられます。さすがに大きな会社が担当する研究で自社にそれなりの経験者がいるケースもありますが、ほとんどの場合、製鉄会社などでも問題になっているベテランが不足してもの作りの技術力が低下しているという事実を痛感します。ま

してや最近ではベンチャー会社からの研究や、試薬反応を触媒反応化するために触媒が専門でない人達を実施している研究もあり、上記問題点がより顕在化してきています。

そこに触媒シニアパワーが活用できるチャンスが大いにあります。例えば個々の PJ にアドバイザーとして入り研究項目、実験内容につきアドバイスをする役目です。企業などに属していないシニアであれば、周囲の環境に左右されず客観的な判断がよりし易く、PJ としても情報漏れの心配をせずにもの作りに長けた先輩の力を活用できると思います。我々も自分の経験・知見を利用して貰う事で満足感を得られるのではないかと思います。既に我々の仲間には NEDO の例とは別に企業の研究でのアドバイザーをされている方もあり、世の中には触媒経験者の活躍の場がまだまだありそうです。

確か前々回の懇談会ニュースに出口さんが「シルバー研究所」構想という記事を書いておられましたがシルバーパワーにもいろいろお得な使い道があると思います。

そこで一つの提案は、このようなシルバーパワーの活用機会を増やすための会員情報を集めた名簿の作成です。懇談会のメンバーがどのような事に協力できるか、キャリアー、得意分野などの情報を載せた名簿を作成する事です。パワーが活用できそうなニーズに触れた人が、その名簿の中から適任そうな人を見つけて紹介しあうようなことが出来れば活用の場が広がると思いま

す。

(野尻直弘)

シニア懇談会事務局連絡

触媒便覧

触媒学会創立 50 周年記念出版「」が発刊されています。

触媒学会特別価格 27,500 です。

秋の触媒討論会

第 104 回触媒討論会は 9 月 27 日(日)～30 日(水) 宮崎で開催されます。

懇談会名称

シニア懇談会の名称は今後もシニア懇談会と呼ぶことで 3 月 30 日の触媒討論会でのシニア懇談会で決定しました。

会計担当と活動資金

シニア懇談会の会計は出口隆元常務理事が引き受けてくださいました。

シニア懇談会事務局

室井高城

連絡先 takashiro_muroi@yahoo.co.jp

FAX 029-873-8844